

無料サンプル版

無線従事者国家試験

ねらいどころ

Ver.S1.0-1RK

一陸技「無線工学の基礎」
「無線工学A」
「無線工学B」

(平成29年1月期)



【付録】

電気通信関係の国家試験及び進路先
多肢選択式の解答テクニック(工学編)

「多肢選択式の解答テクニック」は、他の国家試験、公務員試験、就職試験等の受験者の方も参考に！

はしがき

この無料サンプル版は、長年受験指導をしてきた筆者のノウハウを基に作成した完成版の一部をピックアップし、説明を加えたものです。

無線従事者国家試験は、だれでも受験できる国家試験です。また、この国家試験に合格して免許証を取得すれば次のような特典があります。

- (1) 一陸技(第1級陸上無線技術士)の免許を取得すれば、国家公務員試験のⅡ種(大卒)の待遇で、しかも面接中心で国土交通省航空局等に採用される可能性があります。この場合、公務員試験適用外官職のため、必ずしも**公務員試験の合格の必要はありません**。
このように工学系の資格の中で公務員試験を受けないで公務員になれるのは、非常に珍しいものではないでしょうか。
- (2) 一般に入社が難しいと思われる**放送局等の採用にも有利な資格**です。放送局では、一陸技免許取得者が「落成後の検査」「定期検査」の場合の**検査項目**でもあり、電波を発射しているときは、放送局内に1名は勤務している必要があります。
- (3) どの無線従事者国家試験にも合格していない者は、他の一部の国家試験と違って実務経験だけで無線従事者の免許証はもらえません。このことは、かえって無線従事者国家試験を受けることに対して**やりがいのあるもの**です。

一般に国家試験は、「やる気」・「基礎力」・「傾向対策」で合格できるものと考えています。無線従事者国家試験も同様です。(ただ、これらの内一つでも達成度0パーセントなら、恐らく合格できません。)これらの中で「やる気」は、ほとんどの受験生はあると思います。また「基礎力」も日ごろからの勉強でしっかりあると思います。しかし、応用力まで出てくる場合や重箱の隅までねらってくる場合は、大変です。そこで切り札になるのが「傾向対策」です。本資料では、この「傾向対策」として「無線従事者国家試験のねらいどころ」をズバリ的中させたいと考えています。

無線従事者国家試験は、過去問題とよく似た問題が多く出題されています。ですから過去問題を中心に勉強されることが合格への近道です。しかし、過去問題数は非常に多く、理解・記憶していくことは大変です。そこで、過去問題を次期の試験に対しての重要度で格付けしてみることにより、強弱を持たせて理解・記憶を促進させます。(このことは、皿回しによく似ているという意見があります。よく回る皿と回りにくい皿があっても強弱を付けて回します。後は逐次皿に触れるだけで、最終的に全部回っているようにします。)結果として、試験のとき過去問題の多くの問題を理解・記憶していることになるでしょう。**理解・記憶を促進させるために、強弱すなわち重要度のランク付けをした本資料に示す「ねらいどころ」がお役に立つものと考えています。**

本資料は、一陸技国家試験「ねらいどころ」シリーズの工学科目「無線工学の基礎」「無線工学A」「無線工学B」について作成したものです。

なお、付録として、「電気通信関係の国家試験及び進路先」は、筆者の経験した内容を中心に流れ図風にまとめたものです。一陸技に対しての電気通信主任技術者試験と工事担任者試験との関係がわかると思います。さらに一陸技を取得することでの進路先や高校教員免許(各都道府県の教育委員会に問い合わせてください。3年以上の実務経験をすることで単位取得や実習もなく教員免許がもらえます。)、職業訓練指導員免許(厚生労働省に確認してください。試験を受けないで職業訓練指導員免許がもらえます。)について示しています。

一方、「多肢選択式の解答テクニック」について面白い手法を書いています。もちろん問題の内容をしっかりと理解し解答することは一番大切です。しかし、せっかく勉強しても少しの差で合格にたどり着けない場合、勉強をしていればいるほど悔しい思いをされると思います。ですからそのようなことがないように最終切り札として「多肢選択式の解答テクニック」を少し読んでいただければと思います。また、この「多肢選択式の解答テクニック」は、無線従事者国家試験を受ける方だけでなく、他の国家試験、公務員試験、就職試験等の多肢選択式問題に対して、少しは参考になることができるものと考えています。

平成 28 年 12 月

筆者 しるす

目次

はしがき

- I. 一陸技「無線工学の基礎」のねらいどころ(平成29年1月期).....4
- II. 一陸技「無線工学 A」のねらいどころ(平成29年1月期).....9
- III. 一陸技「無線工学 B」のねらいどころ(平成29年1月期).....14

付録

- IV. 電気通信関係の国家試験及び進路先.....19
- V. 多肢選択式の解答テクニック(工学編).....20

(完成版は全25ページです。)



確かに受験のためには、多くの過去問題等を中心に勉強することは重要なことです。しかし、過去問題は非常に多くの問題数があり、なかなか難しいものです。したがって、効率よく勉強するための一つの支援として、一陸技平成29年1月期の試験「無線工学の基礎」「無線工学 A」「無線工学 B」に対しての「ねらいどころ」を次に述べてみたいと思います。(受験勉強は、『電波受験界』の出題状況表を基に、基本的に小項目の項目順に問題解答集の問題について参考書等を使って解答してみてください。そのときにこの「ねらいどころ」の重要度に沿って強弱を入れて勉強してみてください。)

特に

今回平成28年7月期の「ねらいどころ」から大改訂を行いました。今までは出題状況表を基に基本的にその小項目に重要度を当てはめて指摘してきたのですが、今回も全面的に小項目の中でもどの問題か。というようにズバリこの問題だとして、そこに重要度を当てはめて指摘するようにしました。

重要度の高い順から S,A,B としました。さらに、**特に特に重要** **特に重要** 等の指摘も併用しました。

また過去問題の分析において、今回の勉強範囲は、基本的に平成24年1月～平成27年7月の問題を考えました。

《特に A 問題20問中、9問程度攻略できれば、後述の多肢選択式の解答テクニック(その7)を併用することにより、3～4問程度の正解を積み上げることが期待されます。さらに、B 問題において、テクニック(その5)やテクニック(その6)を使えることができる問題がありますので、B 問題は3問分程度正解することが期待されます。したがって、合格ラインの15問を突破できるでしょう。もちろん、テクニックを使わず A 問題について9問を超えて正解を導くことができればできるほど、先述のテクニックやそれ以外の多肢選択式の解答テクニックも併用して満点近くの高得点をねらうことも夢ではないと大いに期待されます。》

I . **一陸技「無線工学の基礎」のねらいどころ**

平成29年1月期

では、最初に、**重要度S**の問題を出題分野ごとに次に列挙します。

【電気物理】

平成26年7月 A-1の問題

平成27年1月 A-3の問題

平成25年7月 A-1の問題

平成24年1月 B-1の問題

平成27年1月 B-1の問題

平成26年7月 A-4の問題

特に重要

平成27年7月 A-3の問題

平成27年1月 A-2の問題

平成26年7月 B-1の問題

【電気回路】

平成27年7月 A-7の問題	←	特に重要
平成26年7月 A-7の問題	←	特に重要
平成25年7月 B-2の問題	←	特に重要
平成24年1月 B-2の問題	←	特に重要

完成版は、重要度 S だけでなく、重要度 A, 重要度 B を列挙しています。

II. 一陸技「無線工学 A」のねらいどころ

平成29年1月期

III. 一陸技「無線工学 B」のねらいどころ

平成29年1月期

付録

IV. 電気通信関係の国家試験及び進路先

電気通信関係の国家試験との科目免除の関係や教員免許等について説明しています。一方、それらの国家試験合格後の主な進路先も説明しています。

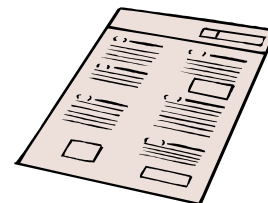
完成版は、流れ図的に示しています。

V. 多肢選択式の解答テクニック(工学編)

「はしがき」でも申しましたように問題の内容をしっかりと理解して解答することは、一番大切です。しかし、せっかく一生懸命に勉強したのに少しの差で合格できないという結果になれば、くやしくて眠れないものです。そのようなことにならないために、「過去問題の理解」、さらに「ねらいどころ」として

の問題を徹底してやった後に、最終切り札として「多肢選択式の解答テクニック」(工学編)も知って対応することをお勧めいたします。もちろんこのテクニックだけに頼るとするのは、だめです。

それでは、筆者としての「多肢選択式の解答テクニック」(工学編)を次に列挙して説明したいと思います。



完成版は、テクニック(その1)～テクニック(その7)を示しています。

2. テクニック(その2)

いわゆる「**単位合わせの原理**」です。

たとえば、【一陸技平成16年1月「無線工学の基礎」(A-20)の問題】

「図に示す長さ l [m]の板状絶縁物の体積抵抗率 ρ を表す式として、正しいものを下の番号から選べ。ただし、直流電圧計の指示値を V [V]、直流電流計の指示値を I [A]及び主電極の面積を S [m^2]とし、直流電流計の内部抵抗は無視するものとする。」(※図を省略)

- 1 $\rho = V l / (IS)$ [$\Omega \cdot m$]
- 2 $\rho = VSI / l$ [$\Omega \cdot m$]
- 3 $\rho = VSI l$ [$\Omega \cdot m$]
- 4 $\rho = VS / (Il)$ [$\Omega \cdot m$]
- 5 $\rho = I l / (VS)$ [$\Omega \cdot m$]

この問題では、まず1の式の右辺に単位を入れてみると、

$$[V][m] / ([A][m^2]) = [\Omega] / [m]$$

となり、 $[\Omega \cdot m]$ とはなりません。

このようにして2～5まですると、

4においては、

$$[V][m^2] / ([A][m]) = [\Omega][m]$$

となり、 $[\Omega \cdot m]$ と一致しますので、正解は4となります。

4. テクニック(その4)

選択肢の解答文の中に限定的用語がある場合は、一般に間違いである可能性が高いです。すなわち、「必ず」「常に」「すべて」「例はない」「ことはない」「余地はない」「のみ」「～限り」「限られる」「直ちに」「～にかかわらず」というような場合です。いわゆる「**限定用語の原理**」です。

一方、一般に引っ掛けの選択肢を用意しているので、混同する場合がありますが、出題者としてはせっかく選択肢を考えたのですから、その選択肢を読んでもらいたいはずですが、したがって、もし混同する場合は、一般に後の選択肢を取るほうがいいのではないのでしょうか。

たとえば、【一陸技平成16年1月「無線工学A」(A-17)の問題】

「次の記述は、FETアナライザについて述べたものである。このうち誤っているものを下の番号から

選べ。」

- 1 入力信号の各周波数成分ごとの振幅のみの情報が得られる。
- 2 移動通信で用いられるバースト状の信号など、限られた時間内の信号の解析ができる。
- 3 解析可能な周波数の上限は、標本化周波数で決まる。
- 4 折返し雑音(エリアシング誤差)が生じないようにするには、入力信号の周波数が標本化周波数の1/2より低くなるように帯域を制限する。
- 5 スペクトルアナライザと組み合わせると、解析可能な周波数の上限を上げることができる。

この問題では、1に「のみ」という限定的用語がありますので、正解は1です。

無料サンプル版 無線従事者国家試験 ねらいどころ Ver.S1.0-1RK
一陸技「無線工学の基礎」「無線工学 A」「無線工学 B」(平成29年1月期)

発行元 無線従事者国家試験研究室

発行人・著者 曾根 康仁

<http://musen.cocolog-nifty.com/>

〒769-1101 香川県三豊市詫間町詫間468-1

TEL090-8975-9653

発行年月日 平成28年12月19日

無断で複写、複製、転載することを禁じます。

©SONE Yasuhito

ご意見・ご感想: team-s-one@mx8.tiki.ne.jp まで。

全員の方にお返事はできませんが、いただいたメールは必ず目を通します。

- ※ 完成版の対象期間中、「ねらいどころ」等において、追加事項がある場合は、逐次Eメールにて無料配信する予定です。(または、「ねらいどころ」のブログにて公開いたします。)
- ※ 一方、完成版を基に一陸技国家試験の勉強をされた方は、その国家試験の結果について(team-s-one@mx8.tiki.ne.jp)まで教えていただければ幸いです。教えていただいた内容については、個人が特定されないように加工し、本研究室のブログにて、多くの受験者の励みになるよう発表させていただきたいと考えています。よろしくお願いいたします。